

# 学校探検の具体例①

入学して間もない子どもは、学校の様々なことに興味津々です。対象と繰り返し関わることができるよう、単元や環境を構成することによって、施設の位置や特徴、役割だけでなく、そこにいる人の存在や働きなどに気付き、これから的生活に期待をもてるようになってほしいものです。

ここが  
ポイント

## 生き生きと活動できる構成に

学校の「もの」「ひと」との距離を近付けていくために、段階的に三つに分けて構成しました。

2年生との探検で、2年生のおすすめの場所を教えてもらいますが、一度見ただけではどこに何があるのか分からなくなり、改めて確認する必要性が出てくることが考えられます。「もっと見てみたい」という意欲を大切にし、自分たちだけでの探検につなげていきます。



### 【探検の段階】

- ① 先生と探検:探検のルールを知る
- ② 2年生と探検:上級生との関わり
- ③ 自分たちで探検(各階):  
「もの」「ひと」に関わる→技への気付き

ここが  
ポイント

## ちょこちょこ探検でウォッキング！

探検していくうちに、「この部屋は何をするところかな。」「これは何に使うんだろう」といった疑問が生まれます。そこで、「自分たちだけでは分からない。」と、特別教室を上級生が使用している時に、少しお邪魔することにしました。活動の様子をよく見たり、話を聞いたりすることで、

「家庭科室ってミシンで縫い物をするところなんだ。」「早くやってみたいな。」と、実感することができます。



ここが  
ポイント

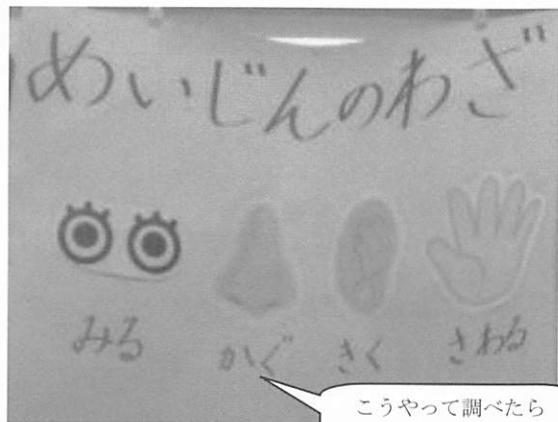
## 見付けた情報は学級で共有！

校舎の白地図を階ごとに用意し、探検する度に子どもの発見したことを位置付けていきます。地図、写真、子どものカードなどを合わせてマップとして掲示することで、位置を認識するのが苦手な1年生でも、「ここにはこんなものがあったな。」と、情報を関連付けて考えることができます。



子どもの気付きをカードに  
価値付けます。

また、部屋ごとの発見を小さなカードに書きため、写真と共に掲示します。日常的に互いの情報を共有できるようにすることで、「休み時間にも探してみよう。」「○○君と同じことを見付けたんだ！」と、たくさんのことを見付けた自分に気付いたり、友達の気付きにも目を向けたりすることにつながります。



こうやって調べたら  
よく分かったんだね。

目や耳、手触りなどの感覚を使って見付けてきた子どもの気付きから、「わざ」として価値付け、どんどん獲得し、試していくように励ましていきます。

「わざを使ったら詳しく分かったよ。」「一人でも使えるんだよ！」と、繰り返すことで、自信をもって活動することができます。

